

研究主題

情報社会における危機管理とモラル

— 情報リテラシーや情報処理能力を高める学習 —

大阪市立昭和中学校

目 次

1	研究主題	P 3
2	研究の目的	P 3
3	研究内容	P 3
	(1) 実施時期	
	(2) 内容	
	(3) 推進体制	
4	公開授業	P 3
	(1) 1 年生	
	① 学習指導案	P 4
	② 授業補助資料	P 8
	③ 生徒アンケート結果	P 1 3
	④ 資料	P 1 4
	(2) 2 年生	
	① 学習指導案	P 1 5
	② 授業補助資料	P 1 7
	③ 生徒アンケート結果	P 2 6
	(3) 3 年生	
	① 学習指導案	P 2 7
	② 授業補助資料	P 2 9
	③ 生徒アンケート結果	P 3 8
5	研究協議資料	P 3 9
6	成果と課題	P 5 3
7	今後の目標	P 5 3

1 研究主題

「情報社会における危機管理とモラル

— 情報リテラシーや情報処理能力を高める学習 — 」

2 研究の目的

今日的課題である「情報社会における危機管理とモラル」に焦点を当て、ネット社会の光と影を体験することにより、ネットに関わる様々な問題点を明らかにし、様々な情報を取捨選択する情報リテラシーや情報処理について学習させ、慎重かつ大胆に現代社会を生き抜くたくましさを身につけさせる。

3 研究内容

(1) 実施時期

5～8月	教職員間での研修、素案作成、教材等の骨子づくり
9～10月	教材作成、関係機関との連絡調整
11月	外部講師を招聘しての校内研修の実施 当該単元の授業開始
12月	公開研究授業実施
1～2月	研究成果のまとめと成果の検証、研究報告・発表

(2) 内容

- 生徒の生活に密着した課題、携帯電話を使ったいじめの問題やネットに関する金銭的なトラブル、またウィルスが引き起こす損失についてなどを、具体的に指導する方法について研究を進め、実践する。
- 様々な情報をどのように読み取り、どのように処理していくか、その中のモラルはどのようなものかについて指導する方法について研究する。
- 生徒の日常生活の安全を確保し、また人権意識の高揚を目指す。

(3) 推進体制

- 本校は小規模校であり、多くの校務分掌は兼任が多い。
企画委員会が研究推進の母体となり、教務部を中心として、国語科（情報読解力）、情報教育担当などが参画して研究を推進してきた。

4 公開授業

- 各学年ごとに以下のテーマを設定し、それぞれの公開授業に取り組んだ。
授業後の研究協議では、大阪市教育センターの玄藤 一則 総括指導主事、菱田 準子 主任指導主事のご指導をいただきながら、当日の公開授業を含めた1年間の研究活動全般にわたる総括を行った。（総括担当：堀端和彦）

○1年生（授業担当：植田恭子）

「情報を読み解く」

○2年生（授業担当：坂根眞一郎）

「ネットワーク社会で生き残るために」

○3年生（授業担当：杉村浩司）

「情報社会の安全性について考えよう」



(1) 1年生

① 学習指導案

「今日的課題研究発表会」公開授業 学習指導案 (1年)

単元 「情報を読み解く」

日時 平成21年12月4日(金)第5時限 (午後2時00分～2時50分)

指導学級 1年2組 男子17名・女子13名 計30名

授業者 植田恭子

ゲストティーチャー・山本雅彦氏(朝日新聞・フォトディレクター)

単元のねらい

高度情報社会において情報を読み解く力、メディアリテラシーは基盤となる力であり、その育成を図ることは必要不可欠である。しかしながら学習者の実態として、情報が氾濫する中で情報から背を向け、情報と主体的には向き合っていない傾向が見られる。

人は目の前の情報と現実社会との関わりを実感した時に、情報と向き合い、情報の中から自分にとって必要な情報を取捨選択しながら読むことが可能になる。主体的に情報と関わり、自分自身の考えや経験と情報が結びついた時に、情報は生きたものとなり、情報への理解はより深いものとなる。

翻って、高度情報社会において「読むこと」の有りようも多様化してきた。学習者を取りまくメディア環境の変化も著しく、インターネットのWebページや携帯サイトからの情報を享受し、活用している現状がある。このような学習者を取りまく状況をふまえ、主体的に情報と向き合い、情報を読み解く力を育成するために、1学期から国語科の年間カリキュラムにメディアリテラシーを育成する単元を設定し、新聞情報に親しみ、比較して読む、映像情報を読み解き、伝え合うなどメディアを読み解く学習活動に取り組んできた。

本単元では情報を読む活動で培った読み解く力を活用し、学習者と実生活が結びついた情報を主体的に読み解く場を設定し、2,3年生での学習に繋げていく。

単元の流れ (全7時間)

第1時 □ 「よむ」ということについて考える。

- ・高度情報社会においてよむことも多様化している。
- ・〇〇を読む……〇〇にあてはまる言葉を考え、伝え合う。

□ 「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年下)を読む。

- ・「アップ」とは何か、「ルーズ」とは何かについて読み取る。
- ・「アップ」と「ルーズ」について基本的な映像の技法について知る。

第2時 □ 四コママンガの情報を読む。

- ・四コママンガの構成、起承転結を確認する。
- ・「ののちゃん」4482回 2009年11月21日付 朝日新聞朝刊について、描かれている情報を言葉で表現する。ポチの思いを想像する。四コママンガを解説する。

- ・同じ「ののちゃん」のマンガを読むが、本紙にある「ののちゃん」しばらく休みます。おことわり「ののちゃん」は作者の病氣療養のため、22日からしばらく休載します。」という情報があることで、四コママンガに対する読みが変化することを実感する。

第3時 □ 「白いハンカチ」(大石芳野)の写真を読む。

- ・この少女の写真からどのような情報が読み取ることができるか。

少女の年齢、服装、表情など

- ・タムちゃんという女の子は六歳。腕は生まれながらに細くて短く指の数も少ない。

- ・写真にキャプションをつける。実は「白いハンカチ」という題名であることを明かす。

□ 「白いハンカチ」(1996年7月21日 朝日新聞)の写真と記事を読む。

- ・記事を読み、「白いハンカチ」というタイトルに込められた大石氏の思い(送り手の思いや意図)を読み取る。

第4時 □ 阪神淡路大震災のスライドショーの写真を読む

- ・朝日新聞のWebページのスライドショーの写真を読む。

□ 阪神淡路大震災のスライドショーの写真のなかのアップとルーズの写真を読んで、「伝えられること」と「伝えられないこと」について考える。

□ グループで心に残った写真について伝え合う。

- ・各グループで心に残った写真を一枚選ぶ。
- ・グループで選んだ一枚の写真について、写真から読み取ることができる情報、写真を読んで感じたこと、なぜ心に残ったかについて伝え合う。

第5時

阪神淡路大震災のスライドショーの写真を読み解く。

(本時) □ 各グループで話し合ったことをクラスで交流する。

□ スライドショーを作成した送り手からのコメントをいただく。

□ スライドショーについて知る。

□ スライドショーを他のメディアと比較する。

第6時 □ スライドショーの写真を使って、「わたしのスライドショー」を作成する。

- ・たくさんの写真(溢れる情報)から、情報を取捨選択する(情報の編集)ことの難しさを知る。情報の送り手体験をする。

第7時 □ 作成したスライドショーを伝え合う。

□ 情報を活用すること、情報とは何かについて話し合う。

本時のねらい(5/7 時間目)

本時では、実際に朝日新聞のWebページのスライドショーを作成された、フォトディレクターの山本雅彦氏をゲストティーチャーとしてお招きし、送り手の側からの思いや考えを聞かせていただき、スライドショーの情報を読み解く上での手がかりとする。

スライドショーは「Web 上で、音声に合わせてスチール写真が自動的に次々と切り替わっていく表現方法で、いわばデジタル版の紙芝居のようなもの」（朝日新聞・山本雅彦氏の定義）で、動画とは違い、一枚一枚がインパクトのある写真で構成されている。スライドショーを読み解く前に、写真の情報を読む学習を重ねてきた。本時では、新しい表現方法について送り手から、写真についての読み解きを解説いただき、スライドショーを読み解く学習へ展開していきたい。情報の送り手の言葉を手がかりに、情報の奥にあるもの、背景にあるものを意識して、情報と主体的に関わることの大切さも実感させたい。

本時の展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導入 (5分)	1 写真を読んで、どのような発見があったか発表する。 2 本時のねらいを確認する。	・自由に交流し、学びの構えをつくる。
展開 (42分)	3 各グループで、スライドショーの中から選んだ一枚について発表する。 ・なぜこの写真を選んだのか。なぜ心に残ったのか。 ・写真から読み取れる情報は何か。 ・写真につけたキャプション、なぜつけたか理由 ・写真に写っている人の思い ・カメラマンはどのような思いでシャッターを切ったのか。 4 ゲストティーチャーからコメントをいただく。 （ゲストティーチャーは、スライドショーを作られた朝日新聞・フォトディレクターの山本雅彦氏） 5 スライドショーについての説明を聞く。 6 「阪神淡路大震災」のスライドショーを視聴する。 7 実際に視聴して、他のメディアとの違いはどこにあるのかを考える。	・聞き手は情報交流カードに記入しながら、発表を聞く。 ・相手意識をもって情報発信をさせる。 ・ゲストティーチャーのコメントはキーワードを意識して聞き取らせる。 ・送り手の思い、意図を知り、情報と主体的に向き合う契機とする。 ・スライドショーは、それぞれの五感で感じとることに重点を置く。
まとめ (3分)	8 次時の予定を聞く。	・次は自分たちが情報の送り手になることを伝える。

今後の展開

- ・阪神淡路大震災に関して、今回のWeb ページを読み解く学習を活かし、1月17日に関連する多様な情報を読み重ね、自分たちに何ができるか。自分たちは何をしなければならないかを考えさせ、自身の生き方を見直す機会としたい。「危機管理」に関わる防災教育へと展開させていきたいと考えている。
- ・あわせて情報における「報」、知らせを読むだけでなく、「情」、心情や思いをいかに読み取っていくかについても考えさせたい。

〈ご高評価欄〉



② 授業補助資料

アップとルーズで伝える

中谷 日出（なかや ひで）

- ① テレビでサッカーの試合を放送しています。今はハーフタイム。もうすぐ後半が始まろうとするところで、画面には会場全体が映し出されています。両チームの選手たちは、コート全体に広がって、互いにボールを回し、体を動かしています。観客席はほぼ満員と言っていいでしょう。スクリーンには黄色一色の応援席が映っています。応援するチームのチームカラーの洋服などを身に着けた人たちです。会場全体が静かに、興奮を抑えて、開始を待ち受けている感じが伝わります。
- ② いよいよ後半が始まります。画面は、コートの中央の選手を大きく映し出しました。ホイッスルと同時にボールを蹴る選手です。目はボールの方を見、少し緊張した顔つきです。
- ③ 初めの画面のように、広い範囲を映す撮り方を「ルーズ」といいます。次の画面のように、ある部分を大きく映す撮り方を「アップ」といいます。アップとルーズでは、どんな違いがあるのでしょうか。
- ④ アップで撮ったゴール直後のシーンを見てみましょう。ゴールを決めた選手が両手を広げて走っています。ユニホームは風をはらみ、口を大きく開けて、全身で喜びを表しながら走る選手の様子がよく伝わります。アップで撮ると、細かい部分の様子がよく分かります。しかし、この時、ゴールを決められたチームの選手は、どんな様子でいるのでしょうか。走っている選手以外の、映されていない多くの部分のことは、アップでは分かりません。
- ⑤ 試合終了直後のシーンを見てみましょう。勝ったチームの応援席です。大きく振られる大小の旗や垂れ幕、立ち上がっている観客と、それに向かって手を挙げる選手達。選手と応援の人達とが一体となって勝利を喜び合っています。ルーズで撮ると、広い範囲の様子がよく分かります。でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、なかなか分かりません。
- ⑥ このように、アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあります。それで、テレビでは、普通何台ものカメラを用意していろいろな映し方をし、目的に応じてアップとルーズを切りかえながら放送をしています。
- ⑦ 写真にもアップで撮ったものとルーズで撮ったものがあります。新聞を見ると、伝えたい内容に合わせて、どちらかの写真が使われていることが分かります。紙面の広さによっては、それらを組み合わせることもあります。取材の時には、いろいろな角度や距離から、多くの写真を撮っています。そして、その中から目的に一番合うものを選んで使うようにしています。
- ⑧ テレビでも、受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップで撮るかルーズで撮るかを決めたり、撮ったものをえらんだりしているのです。

スライドショーの写真を読む

学習日 月 日

年 組 番

< / > 班 班のメンバー<

1 なぜこの写真を選んだのか。なぜ心に残ったのか。

この写真を見て、とても悲惨で悲しそうな場面が映しだされていたのでこの写真にしました。

2 写真から読み取れる情報は何か。

写真を読んで、思ったこと・感じたこと・考えたこと

この写真から読み取れる情報がいろいろあります。

一つは、竹の芽にたてしめたろうやから、何人か、何人か、何人か

阪神淡路大震災に巻き込まれたということです。

もう一つは、いどう行事に祈りをささげている。

外国人の姿もありました。

3 この写真につけたキャプション< 国境を越えた祈り >

なぜこのキャプションをつけたのか。[理由]

私がこの写真につけたキャプションは、国境を越えた祈りです。理由は、この写真には、海外の人が追どうしている姿が写っていました。私は、日本の人だけが悲しい思いをしているのだと思っていました。でも、この写真を見て、海外の人も同じ思いをしていたことを知ったからです。

4 この写真に写っている人の思い

この写真に写っている人はこのような思いを抱いているのではないだろうか。

この写真の人たちは、自分の家族もけがをしたり死んでしまったという悲しみを感じている。そして、自分たちも生きていくために、いろいろなことをしている。そして、自分たちが生きていくために、いろいろなことをしている。そして、自分たちが生きていくために、いろいろなことをしている。

それは次のような理由から

被災して、生活が苦しいのをのりこえ、生きていくために、いろいろなことをしている。

5 カメラマンはどのような思いでシャッターを押したのだろうか。

ぼくは、様々な気持ちを読者に伝えたいという一心で、シャッターを切ったのだと思います。なぜなら、その人達は、「お父さんだよ」と、やがてあることを伝えに来た人もいれば、「おんが死んでしまったんだ。」と、その人の死を悔やむ人達もいると思うのです。この写真を撮った人は、きっと、様々な気持ちを真剣に、伝えたいんだとぼくは、思いました。

情報交流カード

1

年 組 番

く

く 1 班 絵コンテ

キャプション



国境を越えた祈り

発表を聞いて

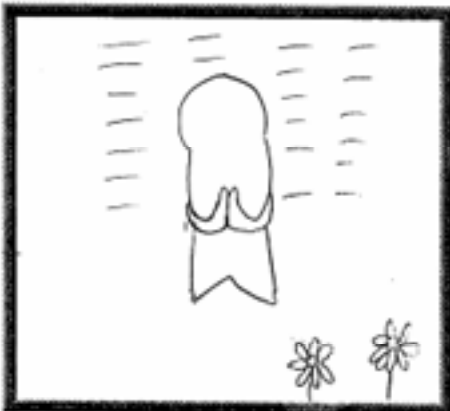
外国の人々も思じょうな思いをして
いるのだと思った。

山本フォトディレクターからのコメント

この写真にはきちんとしたとりかたが
ある。人と1月17日ということ

く 2 班

キャプション



折い

発表を聞いて

不思議な写真を用いて
説明していた。

山本フォトディレクターからのコメント

げんそう的な写真である
不思議なもの。

く 3 班

キャプション



祈々々

発表を聞いて

々の数は亡くなられた人の
数だそうです。

山本フォトディレクターからのコメント

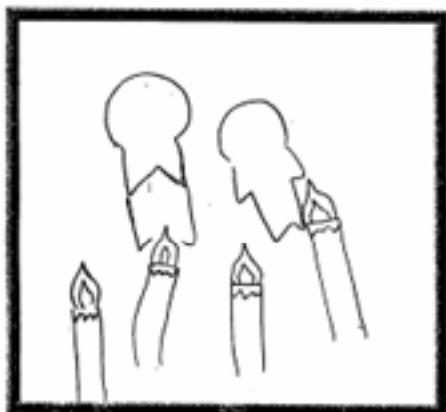
人が立っている風にもみえる。
この写真は想像をふくらま
せる写真だ。

情報交流カード

2 年 組 番 ()

〈 4 〉班 絵コンテ

キャプション



想い

発表を聞いて
この人たちは、悲しみを忘れ、
違う想いを抱えているかもしれない。
山本フォトディレクターからのコメント
やけ野原になった場所。
一番被害が大きかった。

〈 5 〉班

キャプション



お祈り

発表を聞いて
地震を知らない子ともも同じ
気持ちになっておがんでいる。
山本フォトディレクターからのコメント
地震を知らない小学生の
子も一緒におがんでいる。

〈 6 〉班

キャプション



無言の面会

発表を聞いて
なにもいわず無言でいっている
姿は地震の悲惨さを伝える。
山本フォトディレクターからのコメント
カメラマンは写真のとり方を
きちんと考えていることが分かった。

スライドショーの情報を読む

学習日 月 日

| 年 組 番 < >

スライドショーとは

Web上で音声に合わせてスチール写真が自動的に次々と切り替わっていく表現方法。

デジタル版の紙芝居のようなもの。

阪神淡路大震災のスライドショーを読む

五感で感じ、心の眼でしっかり読みましょう。

漢字一字で表現すると…… 感
その理由

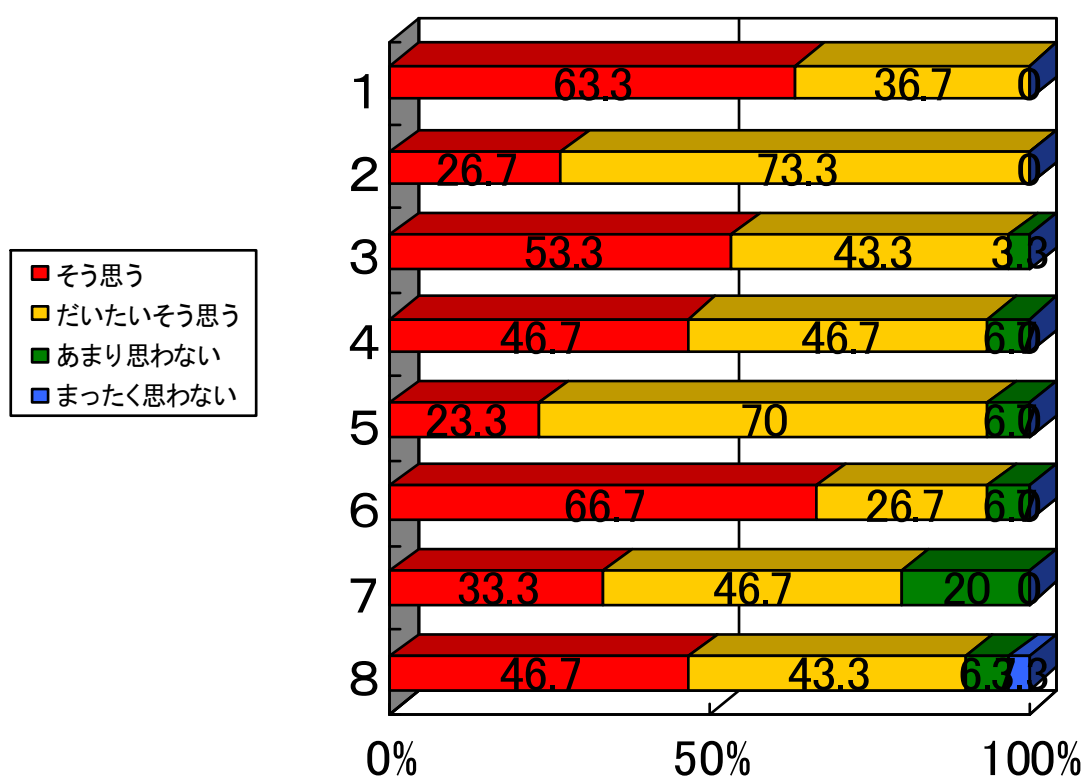
これら写真から人々の感情を感じとれたから。

スライドショーと他のメディアを比べてみよう

	インターネット	テレビ	スライドショー	写真	新聞
共通点	検索して同じようなスライドショーは見ることができる。	動画が流れてアナウンサーなどの人がそのものにあたり言葉をいう。	特性 いくつかの写真と音声と共に流れる。 何秒か写真が止まり、それに合った音声がかかる。	写真を見れば人々の想いは伝わってくる。	写真は一部のっている。
相違点	さまざまな情報が入ってくる。(スライドショー以外も)	動画なので写真のように止まらない。		写真のみで音声はない。	音声はないが、文章で現場などの情報はあ

③ 生徒アンケート結果

- 1 さまざまなよむことがあることがわかった。
- 2 写真の情報を読むことができた。
- 3 写真に写っている人の思いを考えることができた。
- 4 班で協力して、情報発信（発表）の準備ができた。
- 5 自分なりに情報発信（発表）ができた。
- 6 フォトディレクターのコメントを聞くことで、写真を読むことの理解を深められた。
- 7 スライドショーに興味・関心をもった。
- 8 これから Web 情報も活用したいと思った。



来年度の研究 実践校を募集

NIE 教育に新聞を

大阪NIE推進協議会は、2010年度の府内のNIE実践校を募集している。「新聞に親しむ」「新聞から学ぶ」などの指導法を自主計画に基づいて研究し、年度末に3～4ページの報告書を出す。担当教職員が1～2人はA型、3人以上はB型で、A型は年2カ月、B型は4カ月の範囲で、朝日、毎日、読売、日経、産経の5紙の購読料が助成される。新聞記者によるオリエンテーション、新聞社見学が優先的に受けられる。任期は3年。募集するのは小中高校の若干校で、過去

に実践校だった学校も3年以上たっていれば対象となる。

申し込みは、〒530-0000 1大阪府北区梅田1-1の3の1200、大阪駅前第3ビル12階、日本新聞協会大阪事務所内、大阪NIE推進協議会(ファクス06・6334・0950)に応募用紙を請求し、郵送かファクスで応募する。締め切りは来年1月28日(当日消印有効)。(山本博之)

報道写真題材

中学校で授業

本社記者が解説

大阪市教委の研究支援事業で「情報社会における危機管理とモラル」を研究テーマに取り組んでいる同市立昭和中学校(稲田純子校長)で4日、公開授業があった。1年

2組の授業「情報を読み解く」に、朝日新聞大阪本社写真センターのフォトディレクター・山本雅彦記者が参加し、報道写真の撮影方法や意図を生徒に解説した。

30人の生徒が6班に分かれて阪神大震災の追悼行事を報じた写真から1枚を選び、写真から読み取ったことを発表、「国境を越えた祈り」「誓い」などの写真のキャプションも作った。山本記者は「この撮影者は、震災を語り継ぐ姿を伝えたかった」などと解説した。

また、朝日新聞のサイト「アサヒ・コム」で公開されているスライドショーにも触れ、「ニュースをより深く理解する手助けになれば」とこの試みのねらいを話した。(山本博之)

(2) 2年生

① 学習指導案

「今日的課題研究発表会」 公開授業指導案（2年）

日 時 平成21年12月4日（金） 第5限（14：00～14：50）
場 所 大阪市立昭和中学校 技術室（1階）
指導学級 2年1組 33名
指 導 者 坂根 眞一郎

研究主題

研究の目的である「情報社会における危機管理とモラル」のうち、2年時においては電子情報を扱う上でのパスワードの重要性や管理について、あるいは著作権の問題について学習を進めてきた。特に本時は、インターネットが便利な反面、犯罪に利用されやすいことについても十分に理解し、有効に活用していくために留意すべき点について学習する。また別の場面で、携帯電話によるいじめやメールやブログ、掲示板、チャットの利用についても学習していく。また、技術室という環境でパソコン実習をとり入れた授業を行うということで、電子黒板の使用が有効であると考えている。

単元計画

- 第1時 どんな危険がある？
- 第2時 ネットワーク社会で生き残るために（本時）
- 第3時 自然災害には勝てない

本時のねらい

ネット社会に潜む危機について模擬体験を交えながら学習し、その対処法についても学んでいく。

「いまどきの危機管理Ⅱ」

	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	現代社会において、パソコンを使えることは必要・不可欠であることを再度確認する。 どのようなことに利用しているか発表する。	将来情報を活用するスキルが求められている。 情報活用能力は今後「財産」であることをおさえる。
展開 (30分)	自分の知っている「危機」をワークシートに記入し発表する ・ ブラクラ ・ ウイルス ・ フィッシング詐欺	ネット社会に潜む危機について知る

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワンクリ詐欺 ・ キーロガー 等 <p>知らないものについては実際にコンピュータを使って検索し調べ、ワークシートに記入する。時間があれば班ごとに発表する。</p> <p>実際に模擬体験しながら、対処法についても考える。</p>	<p>自分も知らないうちに加害者になる危険性についてもおさえる。</p> <p>電子黒板を使って、順に説明する。</p>
まとめ (10分)	<p>ネット社会に潜む危険とその対処法について知る。</p> <p>今後どのようなことに気をつけなければいけないのかを知る。</p> <p>本時の内容をふりかえり、アンケートに記入する。</p>	<p>便利な半面、悪用される危険があることをおさえる。</p> <p>機器や機能はどんどん改良・変化していく。新たな犯罪が生まれる可能性についてもおさえる。</p>

<ご高評価欄>



② 授業補助資料

「ネット社会」に潜む危機！

2年 組 番 名前

1. 「ネット犯罪」と呼ばれるもので、聞いたことのあるものを書いてみよう。

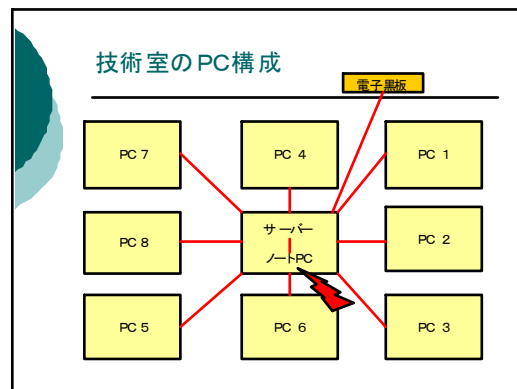
2. 上で書いた「ネット犯罪」の内容を説明できますか。
わからないものは調べてみましょう。

3. 「ネット犯罪」に巻き込まれないために気をつけなければいけないことは何でしょう。

2年生「総合学習」

いまだきの危機管理Ⅱ

～ネット社会に潜むワナ～



インターネットの活用

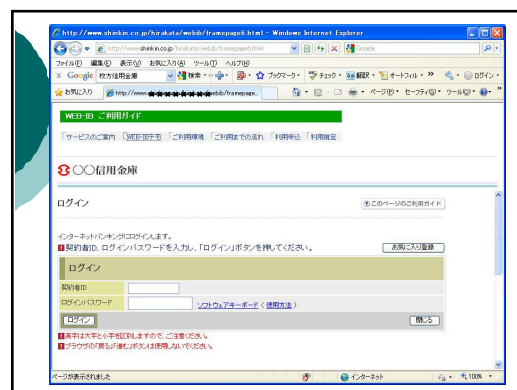
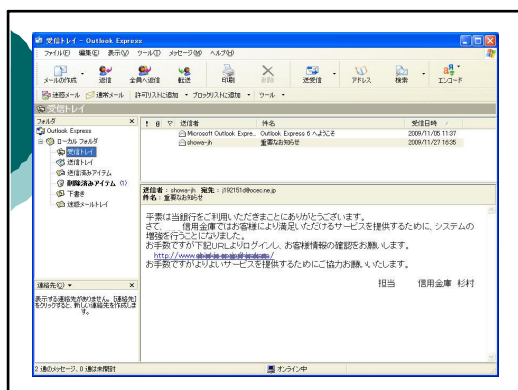
- どんなことに使っていますか？
 - ・ ホームページを見て、情報を得る
 - ・ メールのやりとり
 - ・ お買い物や音楽のダウンロード
 - ・ ゲーム
 - ・ ブログ・チャット

とても便利だけど、危険がいっぱい！！

どんな危険があるでしょう？

- フラクラ
- ウイルス・スパイウェア
- ワンクリック詐欺
- フィッシング詐欺
- キーロガー
- ホスト偽装
- リモート・デスクトップ

etc.



ワンクリック詐欺

あぶないリンク、詐欺のワナ

だまされないためには

- リンクをむやみにクリックしない

もし身に覚えのない請求をされたら

- はらいこんだり、問い合わせをしたりしない
- 必ず大人に相談する

ウイルス

ウイルスに感染しないためには

- ウイルス対策ソフトを使いましょう
- パソコンどうしのファイルの移動は注意しましょう
- メールの添付ファイルを開くときは注意しましょう

フィッシング詐欺

- メールリンクや掲示板リンクをむやみにクリックしない
- プレゼントやサービスにさそわれて、個人情報を入力してはいけません
- 入力するときは、本当に相手に必要な情報かどうかをチェック
- **自分の情報は自分で守ることが大切**

キー・ロガー

- ダウンロードには、次の危険があります
 - ・パソコンのシステムが書きかわり、動作がおかしくなる
 - ・ウイルスや個人情報を盗み出すしかけがされているものがある
- ダウンロードは、コンピュータに影響をあたえます

インターネットは 薬？ 毒？

- インターネットには間違った情報もある
- 悪意を持った書き込みや仕掛けをする人がいる



☆ いろいろな情報と比較し、正確な情報を見きわめましょう

☆ 迷ったときは、自分だけで判断しないで大人に相談しましょう

いまどきの危機管理Ⅱ

今日の授業はどうでしたか？
アンケートに協力してください

いまどきの危機管理Ⅱ

はじめに

危機管理ということばを聞いたことがありますか。
たとえば、そのうちに必ずやってくると言われている大地震。そのときあなたはどうしますか。いや、その前にしていなければならないことをあなたは知っていますか。そのことを実際にしていますか？



あるいは、新聞でときどき話題になっている「Winny^{※1}」による情報漏洩事件について、知っている人も多いことと思います。

コンピュータネットワークが世界中に広がり、ネット上にある情報はたちまち人類が共有することができるようになった。便利になった反面、一度流出した情報はもはや回収することは不可能なのです。企業やお役所だけでなく個人的にも自分の大切な情報が漏れるのは困りますよね。



そして、こんなこともあるかもしれない。

家で、「風呂のカビ取りと掃除をしといてや」といわれて、面倒だからカビ取り剤とお風呂掃除の洗剤を混ぜてやっちゃった。なんだか臭いガスが出てきたんだけど、これって効き目がありそうじゃん！ と思っていたら、生命の危険にさらされていた。

このように、身のまわりにはいろんな危険が潜んでいます。自分には関係ないわと思っているかも知れませんが、いつ何時自分の身に降りかかってくるかわからないのが今の時代です。そこで必要なのが危機管理。（リスクマネジメントとも言います）想定されるさまざまな危険に対して、考えられる対策をとり、予防策を講じ、いざというときに備えておこうということなのです。

昔の人は言っていました、「備えあれば憂いなし^{※2}」

^{※1} Winny とはパソコンで使うソフトの一種で、ファイル共有ソフトと言われている。ファイル共有ソフトとは、インターネットを通じてファイルを多数のユーザ間で共有することを目的としたソフトウェアである。ファイル交換ソフトとも呼ばれる。ネットを通じてみんなでファイル交換するため、著作権の問題や流出しては困るファイルまでみんなが見える状況になったりして問題となっている。何度も新聞で問題になっているにもかかわらず同じような事件が跡を絶たないのはなぜなのでしょう。こういったこと自体が危機管理ができていない証拠なのです。

^{※2} 日頃から準備をしておけば、大変な事が起こった時にも、慌てたりする必要がないという意味。

今回の学習では、私たち個人のレベルでの日常の身のまわりに潜む危機管理について学ぼうというのが目的です。今回の学習で、そのすべての危機についての対処法を学習することはできません。ですが、今回の学習をふまえて、みなさんの危機管理意識を高めてもらったと考えています。

それでは、まず、身のまわりの危険についてあらためて考えてみましょう。

1 どんな危険がある？

特に皆さんに直接的に関わる部分としての危機管理は、地震などの自然災害もさることながら、以下のような項目が考えられる。

- ① 暴力や虐待
- ② 薬物や万引きなどの悪い誘い
- ③ いじめや仲間はずれ
- ④ インターネットや携帯に関わる危険
- ⑤ 日常生活の中にある危険



これらの項目を見て、具体的にどんな危険が想定されますか。中には自分には関係ないよと言う人もいると思います。それはきっと幸せなことなのだろうけれども、世の中にはそれを経験し、日々悩んでいる人たちもいることを忘れないでください。

2 ネットワーク社会で生き残るために



今や日常生活では無くてはならないと思う人が半数を超える勢いのあるインターネットを中心としたネットワーク社会ですが、急速に発展してきたために、ルールやマナーが十分に整備されていないだけでなく、無法に近い状態だったりもします。それだけに注意しても注意しすぎることはないという認識が必要なのですが…。どうですか？ 自分は大丈夫だと油断していませんか？

毎日パソコンに向かって、ブログやチャット、ネットワークゲームをしている人もいるでしょう。そんなパソコン生活の中で、危険な目にあわないように、自分の使うコンピュータの安全を図ることが大切です。アンチウイルスソフトを導入するのは超当たり前と考えて、他に…。

① スパイウェアを排除する

- 対策
- 1 OSなどはきちんとアップデートする。
 - 2 怪しい添付ファイルは開かない。
 - 3 怪しいオンラインソフトはインストールしない。
 - 4 スパイウェア対策専用ソフトを利用する。
 - 5 怪しいホームページには近づかない。

② フィッシング詐欺を警戒

- 対策
- 1 怪しいリンクはクリックしない。
 - 2 HTML メールは表示しない。
 - 3 SSL で通信しているかを確認。
 - 4 SSL の証明書を確認。
 - 5 怪しい URL はトップページにアクセス。

③ ワンクリック詐欺にも警戒

- 対策
- 1 請求画面が表示されても無視。
 - 2 不用意に掲示板やリンクをクリックしない。
 - 3 怪しいサイトに近づかない。
 - 4 安易に個人情報を渡さない。

④ チェーンメール(パソコンだけでなく携帯電話でもあるよね)

・チェーンメールとは

チェーンメールは、メールの最後に「このメールを～人の人に送ってください」といった内容のことが書かれているのが特徴である。そして「止めると殺される」などの脅し文句が入っていることも多いが、その逆に「～のために広めてください」と積極的な流布が社会に貢献するかなのような文句がつけられていることもある。

内容としては、「～が殺されたので犯人を探している」「こんなコンピュータウイルスが出回っています」などの場合がほとんどであるが、「芸能人が〇〇に現れる」「お金持ちになる方法を教えます」というものも出回っている。

チェーンメールは人の手をわたる間に内容が変化する。単なる書き間違いである場合が多いが、より多くの人を引っ掛けるために説得力のある文に書き換えられるということもある。

本当のメールとチェーンメールの見分け方は語尾の「～人の人に送ってください」という文章である。書かれた内容は参考になることは少なく、信用できる友人から送られてくることが多いため注意が必要である。

インターネットなどのコンピュータネットワーク上では、迷惑メールの一種とされ、ネットワーク全体に対して良くない影響が出てくることにつながる。

・例その1

友達から協力頼まれました。よろしくお願いします。鉄腕●ッシュメールがどこまで届くか実験中＝●人にメールを回して下さい。これは、本物です。国分●一チームです。今日の午前0時から明日午後12時59分までのメール受信記録を＝モードセンターで確認しております。

尚、放送予定日は、8月第3週目を予定しております。宜しくお願いします。

※このメールは、番組上製作したものであり、悪質ないたずらや、転送、複写、など等は一切お断わりします。

日●テレビ放送網株式会社

ご意見ご感想がある方は下記のホームページまで

いかにも本物っぽいですよね。

・例その2

◆目を細くして、画面を少し離して見て下さい。あなたには、やつの顔が見えますか？

```

... . . . . .
... - . . . . : "....
:.....: . : :""
. . . . . ; ...". :
: . . . . : " . . .
: . . . . \ : . . ÷
. . . - . . . : ... .
. . . , : : ... . .
. . . - . . : . . . \
: . . . . ; " , : . .
. . : ... : ... . .
" . . . . : . . . .
. . : " . . . ; ' .
... ""

```

↓↓↓

本当に目を細めたあなたはアホですよ... さあこのメールを誰かに送って
アホ友達を増やしましょう。 アホは、けっしてあなただけじゃない！

じゅうぶんに気をつけないと、善意のつもりでしたことが他の多くの人に迷惑をかけることにつながります。

そしてもう一つしっかりわかっておいてほしいことは…

友達にメール・ブログ・チャットで嫌がらせをするのもいじめです。

携帯電話を安易に用い、相手の気持ちを考えずに誹謗中傷^{※1}するような内容をメールで瞬時に配信してしまうことがあります。その結果、相手を深く傷つけたり、大きなトラブルが起きたりします。悪口を言ったり、無視をしたりする言葉や態度の暴力は大きな問題です。しかし、それは学校の中だけで起きているわけではありません。特定のクラスメイトの悪口を書いたメールをグループ全員で送りつけたり、逆にメールが届いたのに返信をしないで無視したりするのもいじめです。この行為は、いつでもどこからでもできることから非常に悪質な行為です。

対策 チェーンメールは転送しない。

※1 誹謗中傷（ひぼうちゅうしょう）とは、根拠のない悪口で他人の名誉を汚し、おとしめることをいう。嫌がらせの一種。

自分がもらって悩むようなメールは、友達がもらっても同じように困るものです。チェーンメールの対応は「転送せず無視する」ことですが、どうしてもそれができない場合のために、携帯電話各社では、「着信拒否」のサービスを無料で実施しています。また、チェーンメールの転送先は下の一覧に紹介してあります。

☆チェーンメールに困ったときのホットライン

<http://www.dekyo.or.jp/soudan./chain/tensou.html>

〈NTT Docomo〉 dakef1@docomo.ne.jp

〈au by KDDI〉 risu1@ezweb.ne.jp

〈ソフトバンクモバイル〉 kuris1@t.vodafone.ne.jp

また、近頃問題になっている「学校裏サイト」なども危険地帯です。近寄らないのが何より。ネットでは、本当に誰が書き込んでいるかわからない。つまり、書かれていることが正しいとは限らない。本当のように見えても、本当の中に隠された嘘は見分けるのが難しい。結局だまされる。ネット社会はそういう暗黒面も持ち合わせていることをしっかり理解しておいてください。

3 自然災害には勝てない…

地震が来たらどうしよう。来ないことを願っていますが、いつかは来ると言われています。皆さんの家でもいろいろと話し合っていると思いますが、ここでは基本的なことだけ確認しておきましょう。



◎在校時

- ① 教室の出入り口の扉・ドアを必ず全開にします。
- ② 机の下などに身を伏せてください。転倒物や落下物から頭部を保護する姿勢をとってください。
- ③ 地震の揺れが収まるまでそのままの状態待ちます。あわてて外へ飛び出さない。建物内は安全です。外に出るとガラス、転倒物、落下物などで危険です。
- ④ エレベータは使用できません。必ず階段を使って避難してください。

◎外出時（登下校時）

- ① 路上では壁などから離れるようにしてください。
- ② かばんや衣類で頭を保護し公園や空き地へ避難します。
- ③ 地面の亀裂・陥没・隆起や電柱、自販機などの倒壊、転倒に注意して避難します。
- ④ 狭い道路や塀ぎわなどは屋根瓦やガラス片が落ちたりする恐れがあるので近寄らないようにします。

◎自宅では

- ① 転倒の恐れのある家具などから速やかに離れ、テーブルの下などに身を隠します。

- ② 玄関などの扉を開けて非常脱出口を確保します。
 - ③ 出火を防ぐためすばやく火を消し元栓を締めます。
 - ④ 外へ避難するときは周囲の状況を良く確かめ窓ガラスなどの落下物に気をつけてください。
 - ⑤ 裸足で外へ出ないようにします。
 - ⑥ エレベータは使用しないでください。
 - ⑦ 自宅が倒壊したら「〇〇にいます」と避難先を張り紙し無事であることを知らせる。
- ※基本的な広域避難場所など各家庭で話し合っておきましょう。

などです。

最近求められているのは、中学生の地域での活躍です。

高齢化の進む日本では、それぞれの地域で平日の日中に大地震などがあった場合、素早い行動ができる若者は、中学生しかいないのです。高校生、大学生、若い社会人…みんな地域から外に出て行っています。皆さんの住む街を守るのは、皆さん自身なのです。

危機管理の一貫として、あなたがた中学生が地域を守るのだという意識を持つことが大切なのです。実際、去年の避難訓練の時の消防署の方のお話も、中学生の皆さんによる消火活動が重要だとおっしゃっていましたね。また、2月には先輩が地域の方々と防災訓練を行いました。

危機管理は他人事ではありません。今日から意識を切り替えて、あなたも危機管理のできる人になってください。



◎あなたの身のまわりにある危険は何ですか。どんな危険があるか考えよう。

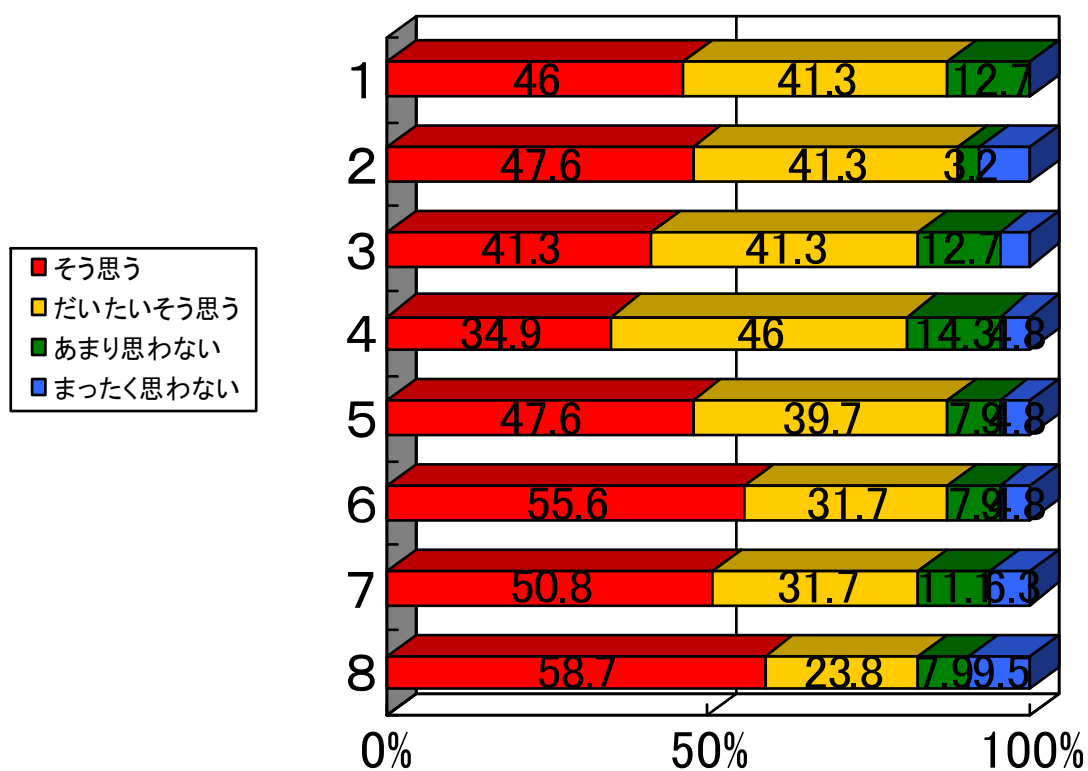
- ・
- ・
- ・

◎その危険に対して、どう対処しようと考えていますか。

今回の学習についてはこれで終わりですが、これですべてではありません。はじめにも書いたように、今までより少しでも危機意識を持って、あなた自身の危機管理を一步でも推し進めてください。チャンスがあれば、この続きも学習していきたいと思います。

③ 生徒アンケート結果

- 1 これからの社会では、パソコンを使えなければならないと思った。
- 2 インターネットに潜む危機についての知識を得た。
- 3 実際に「模擬体験」することで理解を深められた。
- 4 ネット社会に潜む危機に対する対処法を知ることができた。
- 5 今日の授業は今後の役に立つと思う。
- 6 これからも実際にパソコンを操作する授業を受けたい。
- 7 電子黒板を使った説明は、わかりやすいと思った。
- 8 今後も電子黒板を使った授業を受けたい。



(3) 3年生

① 学習指導案

今日的課題研究発表会 公開授業指導案（3年）

日 時：平成21年12月4日 第5限目（14：00～14：50）

場 所：大阪市立昭和中学校 パソコン教室（4階）

指導学級：3年2組 32名

指 導 者：杉村 浩司

研究主題

研究の目的である「情報化社会における危機管理とモラル」のうち、3年時においては、道徳や総合の時間において悪徳商法や薬物について学習してきた。また、技術・家庭科では、「インターネットと社会」において、インターネットの働きや Web の制作についても学んだ。これらの学習をクロスオーバーさせながら、今回は特にチャットや掲示板などにおける匿名性について理解をし、情報化社会における情報モラルの必要性について学ぶ。

単元計画

第1時 テキスト「いまどきの危機管理Ⅲ」を使って、昨年の復習から社会に出ていく上での危機管理について学習をする

第2時 情報社会の安全性について考えよう（本時）

第3時 自分で決めたテーマに従ってネットで調査し、まとめる。

本時のねらい

チャットやブログなどのインターネットにおける匿名性について考え、トラブルに巻き込まれないための方法や、巻き込まれたときの対処法を考える。

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none">・パソコンの起動・インターネットの機能のひとつとして「チャット」があることを知らせる。・チャットソフトの使い方について説明	<ul style="list-style-type: none">・チャットソフト「みんなでおしゃべり」を各パソコンにインストールしておく。
実習 (15分)	<ul style="list-style-type: none">・最初は、各自の発言について、パソコンの番号で発言させる。(匿名性のない状態)・状況によって名簿を配り、さらに匿名性のない状態を高める。・次に自分のハンドルネームを使うことを指示し、発言させる。(匿名性がある状態)	<ul style="list-style-type: none">・不適切な発言があれば、指導をしチャットを停止する

<p>本題</p> <p>(20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャットのログを表示し、匿名性のない状態と、ある状態で、自分の発言や、みんなの発言がどのように変わったかを考えさせる。(あるいは、他のクラスで行ったチャットのログを見せる。) ・匿名性がある状態でのどのようなトラブルに発展するかを考える。 ・無責任な発言がネットいじめ等につながることを考えさせ、過去の事例などを紹介する。 ・自分がトラブルに巻き込まれたときの対処法を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・生徒のプライバシーに配慮し、不適切な発言については、ログから削除する。 ・ PowerPoint 使用
<p>まとめ</p> <p>(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーなどの情報モラルの必要性和その対処法について考えさせる。 ・パソコンの終了 	

《ご高評欄》



② 授業補助資料

情報社会の安全性について考えよう

____年 ____組 ____番 名前_____

1、匿名性がない状態とある状態で、発言はどのように変わったか。

匿名性がない状態（誰の発言かわかる状態）でのみんなの発言。

匿名性がない状態（誰の発言かわかる状態）での自分の発言。

匿名性のある状態（ニックネームを使っていて、誰の発言かわからない状態）
でのみんなの発言

匿名性のある状態（ニックネームを使った誰かっていて、発言かわからない状態）
での自分の発言

2、匿名性のある状態でのチャット、ブログ、掲示板での発言についてどのような
トラブルがあるかを考えよう。

・上記のトラブルについての対策を考えよう。

インターネット犯罪

- ・ ウィルス、スパイウェア
- ・ 架空請求
- ・ ワンクリック詐欺
- ・ フィッシング詐欺
- ・ 個人情報の収集
- ・ スパムメール、ホームページのクラック
- ・ 掲示板荒し
など

掲示板・ブログなどのトラブル

～インターネット、そこは**どこでもドア**～

掲示板・ブログなどの問題点

- ・ 世界中から
- ・ 文字を使った表現
- ・ 匿名性
 どこの誰だか分からない
 ※**なりすまし(他人の名をかたる)**

掲示板などを開設するということは

- ・ いたずらは覚悟しておくこと
- ・ いやがらせに耐えること
- ・ 論議が白熱してヒートアップ
- ・ 悪口雑言に規制がかからない

インターネットは自己責任

トラブルに巻き込まれたら

～他人が開設した掲示板など～

- ・ 管理人に削除を依頼する
- ・ **その掲示板に2度と行かない**

トラブルに巻き込まれたら

～自分が開設した掲示板など～

- ・ こまめに発言をチェック
- ・ 連続書き込みの禁止
- ・ 書き込んだ人のIPアドレスを取り、公開
 ネットには本当は匿名性などない
- ・ 発言をチェックしてから公開
- ・ **会員制の掲示板に移行**

さらに……

- ・ 絶対に応答しない。
- ・ 大人と相談して、ネット会社や警察に連絡する。
- ・ インターネットをやめる。
 自分が開設したWebを閉鎖する。

トラブルに巻き込まれないために

- ・ 文章を見直そう
- ・ 知らない人には敬語で
- ・ 自分の使うシステムを知ろう
- ・ 信頼できるサイトをつかう
 2ch × Mixi△ 友人のサイト?
- ・ フィルタリングソフトを使う
- ・ 個人的な情報を知らせない
 プロフの危険性

いまどきの危機管理Ⅲ

昨年に引き続き身の回りの潜むさまざまな危機について考える学習をします。

あと数ヶ月で中学校を卒業します。今まで以上に社会に出ることが多くなる。その中で気をつけていかなければならないことについて少し考えたい。

1 これからの危機管理

I キャッチセールス

中高生だと売買契約をしても無効になることが多いのだけど、私服だったらわかりにくいし、相手も「高校生だとは知らなかった」といういいわけが用意できるので油断できない。

キャッチセールスとは、アポイントメントセールスの一種で、路上でアンケートや図書券のプレゼント、モデルのスカウトなどの名目で声をかけ、本当の販売目的を隠して事務所や喫茶店に連れ込み、最終的に化粧品や美容機器などの高額商品を売りつける悪徳商法です。

アンケートに協力すると謝礼がもらえると言われれば、時間がある場合ならちょっとくらい協力してもいいかなという気持ちになってしまいやすいですが、悪徳業者はその気持ちを上手に利用してきます。

アンケートを口実として高額商法を売りつける悪徳商法を特にアンケート商法と呼ぶ場合もあります。個人情報を入力するようなアンケートは、その後ダイレクトメールや勧誘が増える可能性もありますので、気をつけたいものです。

また、キャッチセールスで仲良くなっておいて、その場では商品売りつけないで仲良くなってからデート商法（次項目）に発展していく場合もあるようですので、油断しないようにしましょう。

■キャッチセールスの代表的な手口

きっかけ	路上、繁華街などで声をかける
見せかけの手口	アンケートなどでサンプル進呈、お肌の無料診断 モニター協力などで図書券プレゼント、〇〇キャンペーン実施中
契約を迫られる商品	化粧品、エステ機器、各種リゾート施設などの会員権、毛皮、コート、絵画

■キャッチセールス対策

悪徳業者は気が弱そうに見えたり、いかにも扱いやすそうな人を選んで声をかけているようです。道を歩く際には、あまりゆっくりとトボトボ歩いたり、声をかけやすいような隙を作ったりしないように普段から心がけたいですね。

アンケートに協力することと、商品を購入することは最初の主旨がまったく違います。もし、アンケートに協力していて、そういう話が出てきたら、主旨が違うことをはっきり伝えてきちんと断りましょう。

もし、自分で押しに弱いと感じている人は、アンケートに協力して欲しいなどといわれた場合は、相手と目を合わさず無言で足早に歩き去るのが一番だと思います。

キャッチセールスの場合も、アポイントメントセールスと同様に販売目的を隠して喫茶店、事務所などに連れて行かれて契約をした場合には、契約書面を受け取ってから8日以内はクーリング・オフにより無条件で解約できます。

悪徳業者はあの手この手を使ってクーリングオフさせないように、クーリングオフ期間内は親切丁寧に應對したりしますが、情に流されたりしないで必要ないものであればきちんとクーリングオフの手続きをするようにしましょう。

もしクーリング・オフ期間が過ぎてしまっても、勧誘、販売方法などに問題があれば、解約できる場合もあるので、もし被害を受けたと思ったらまずは近くの生活センターに相談してみましょう。

Ⅱ デート商法

「デート商法」は「恋人商法」とも呼ばれ、男性なら女性が、女性なら男性が電話やメールなどを使ってターゲットに仲良くなった後に呼び出して最終的に高額な商品を購入させる悪徳商法のことを言います。

「えっ？そんなのにひっかかるの？」と思われるかもしれませんが、アンケートなどを口実に電話をかけてきた相手が非常にいい人に思えたり、話が上手だったりした場合、アンケートという目的はそっちのけで「友達になろう」「今度遊びに行こう」などと誘われればOKしてしまう気持ちもわからないではないと思います。

そうして仲良くなった頃に悪徳業者の宝石店などに連れて行かれ、断りづらい雰囲気を作られ「相手に気に入られたい」気持ちを利用され、強引に商品を買わされてしまうという、弱い立場を利用した悪徳な手口は許しがたいものがありますね。

特に、普段出会いがなかったり、寂しい思いをしている時期だったりする場合にはひっかかりやすくなりますので注意が必要です。

最近では出会い系サイトがきっかけで付き合う場合もめずらしくなく、そうやって知り合ってすっかり恋人だと思っていた相手から高額な商品をおねだりされて、「相手に気に入られたい」「嫌われたくない」一心で商品を買わされてしまう場合もあるようです。

高額商品を購入してクーリングオフ期間が切れたら急に連絡が取れなくなったりという被害が後をたたないようですので、高額商品の契約をする場合にはよく考えてから行動したいものです。

■デート商法の代表的な手口

きっかけ	電話、メール、出会い系サイト、掲示板、お見合いパーティ
手口	アンケート、普通の出会いに偽装しているので、たちが悪い
契約を迫られる商品	宝石、化粧品、ブランド品、各種会員権、毛皮、絵画、英会話教材

■デート商法対策

やはり電話がかかってきた相手が知らない人であることを十分認識して、「恋人はいるの？」などプライベートな問題に立ち入ってくるようなら、「います」とはっきり答えるなど、プライベートな話はできるだけしないようにしたいものです。

あくまでも、相手は知らない人なので、安易に呼び出しに応じて出かけていけないようにしましょう。

もし、デート商法だと気づかずに恋人同然になった場合でも、50万円～100万円といった高額な商品をねだられるというのは、常識でいってもちょっと普通からかけはなれていると思います。いくら「気に入られたい相手」であっても、ちょっとおかしいなと思ったなら冷静に判断したいものです。

デート商法の場合も、アポイントメントセールスと同様に販売目的を隠して事務所などに連れて行かれて契約をした場合には、契約書面を受け取ってから8日以内はクーリング・オフにより無条件で解約できます。

もしクーリング・オフ期間が過ぎてしまっても、勧誘、販売方法などに問題があれば、解約できる場合もあるので、もし被害を受けたと思ったらまずは近くの生活センターに相談してみましょう。

資料：<http://www.otoku777.com/>

Ⅲ 薬物

文化発表会で保健委員会が報告したように、また、新聞やニュースでもよく話題になり、大学生・高校生の間でも増えて着ている状況です。この問題に対しては、真剣に取り組まないと心身ともボロボロになってしまう。

薬物は、それを乱用する人間の精神や体をボロボロにし、人間が人間としての生活を営むことをできなくするだけでなく、場合によっては死亡することもあります。また、薬物乱用による幻覚、妄想が、殺人や放火等の凶悪な犯罪や交通事故を引き起こすことがあるなど、乱用者本人のみならず、周囲の人、さらには社会全体に対しても取り返しのつかない被害を及ぼしかねないものです。

こうしたことから、覚せい剤、麻薬等の薬物の使用、所持などは法律により厳しく禁止されています。

■麻薬って？

「麻薬」という言葉は、厳密な意味での医学用語ではありません。一般的には、次の2つの概念にわけることができます。

1 つめは、「魔薬」の意味で使われるもので、覚せい剤、大麻等の依存性のある薬物のすべてを含んだひろい概念のものです。

2 つめは、我が国の麻薬及び向精神薬取締法にいう「麻薬」です。これは大別すると、次の3つに分類されます。

これは大別すると、次の3つに分類されます。

麻薬の大別	
あへん系アルカロイド系麻薬	あへんに含まれる成分であるアルカロイド及びそれを原料として科学的に合成される物質：モルヒネ・ヘロインなど
コカアルカロイド系麻薬	コカの葉に含まれる成分であるアルカロイド：コカインなど
合成麻薬	科学的に合成される物質：LSD、MDMA、PCP など

日本では、薬物を取り締まる主な法規として、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、大麻取締法、あへん法、毒物及び劇物取締法及び薬事法があります。

一般に、麻薬というと「魔薬」という広い概念で認識している人が多くみられます

が、覚せい剤は、覚せい剤取締法。大麻は、大麻取締法。あへん、けし等はあへん法。シンナー等は、毒物及び劇物取締法。と規制対象となる薬物がそれぞれの法律で定められており、法律上は麻薬と明確に区別されています。

資料：千葉県警 HP



IV ネット社会

インターネット、携帯電話などまとめてネット社会と呼ぶことにします。この世界は嘘と真実が入り交じっていてそれを区別するのは非常に難しいところです。ウソのように見えるウソは、まだしも真実のように見えるウソ、真実のように見える真実、ウソのように見える真実だってあり得る。

急速な技術革新でこれまで誰も経験したことのない社会である。大人たちもどんな社会なのかこれからどうなるのかわからない。だからこそ、十分に注意しないととんでもないことに巻き込まれるかもしれない。ネット社会だから命には関わらないと思うかもしれないが、出会い系などでは現実社会とのつながりもあり、安心と思いつむのは危険です。

まかり間違っても、自分の個人情報垂れ流すようなことをしてはいけません。

この部分については、後日特別授業があります。

2 さしあたり緊急の危機管理

皆さんにとってはさしあたり緊急の課題は入試でしょう。入学試験の状況においてもさまざまな危機が存在する。

- ① 前日までの段階でインフルエンザにかかってしまったなど
- ② 当日の朝、急に熱が上がったなど
- ③ 試験会場に向かう途中、阪和線が止まってしまったなど
- ④ 受検票などの忘れ物をしたなど
- ⑤ 試験の最中、ど忘れしてしまったなど

①～④までについては今後の進路学習や事前指導でお話があると思いますので、今回ここでは⑤についてのお話をしておきましょう。

I 入学試験を受けるときの危機管理

・まず、これまで自分がやってきた学習について自信を持つこと。(だから、自信が持てるように日々学習をしておくことが大切) 皆さんを指導してくださった昭和中の先生方は皆さんとても優秀な先生方です。その指導を受けた皆さんは他の中学校より断然有利なのです。自信を持ってがんばりましょう。

・ときどき、まわりに仲間がいて、やたら難しそうな話をする人たちがいます。これはトラップです。ほかの人たちを不安にさせようとするせこい技です。塾の中にはそのような技を伝授しているところもあると聞きます。つい聞き耳を立てて、「え、そんなの覚えていないよ」とかビビる必要はありません。「あ、例のずるい作戦を使ってるな」とゆっくり構えましょう。

・答案用紙をもらったら、まず、名前や受験番号を書く。絶対に最初を書くこと。

・問題をもらったらゆっくり全体を見渡しておおまかにどれぐらいの時間がかかるか概算してみましょう。国語の作文問題があるなら、その題を見ておきましょう。問題を解きながら脳の別の部分で作文を考えてくれます。時間管理はテストの基本。

・大事なのは、まず、解ける問題を解くこと。順番に解いて行くのも方法ですが、いきなり解けないと、急に緊張してしまって解ける問題も解けなくなります。この場合も落ち着いて、とにかく確実に解ける問題を解く。そうするとリラックスできます。

・できた解答を評価する。いろいろと苦労して出てきた解答について、今一度それが妥当なものか、別の視点で見直してほしい。その答えが当たり前(常識的)なのかどうか。計算の途中ですごく単純なミスをしてしまっている場合などあるので、このチェックはとても有効です。(かといって、これに時間を取られすぎてはいけない)

・私立高校では、非常に難しい問題が出てくることがあります。その問題に足を引っ張られたまま時間を消費してしまうと時間が足りなくなるので気をつけよう。入試で必ずしも満点とれなくてもいいんです。受験対策として、どの教科でどれくらい、合計どれくらい取ればいいのかは研究していますよね。(していなければ、やっておこう。参考にはなる)

・一応解けたら全体を見直そう。解答欄の書き間違いはないか。問題の条件を満たした解答方法か。(記号か、漢字か、化学式などの条件、一つか複数かの条件はないかなど)、名前、受験番号をもう一度チェック。

3 その他資料

I 携帯電話の使いすぎは 10 代の若者の睡眠に悪影響を及ぼす

携帯電話中毒 (addiction) に陥った 10 代の若者は、熟睡することができず健康リスクを生じていることが、スウェーデンの新しい研究によって示唆された。米ボルティモアで開かれた睡眠専門家協会 (APSS) 年次集会で報告された今回の研究は、スウェーデン、サルグレン Sahlgren's アカデミー (イエーテボリ) 臨床神経科学部門准教授の Gaby Bader 博士らが、以前に睡眠の規則性に問題がないと診断されていた 14~20 歳の健康なスウェーデン人の男女 21 人を対象に実施したもの。

同氏らは、被験者を自己報告に基づき、電話や短いテキストメッセージ (電子メールを除く) を 1 日 5 回利用する群と、1 日 15 回以上利用する群の 2 群に分け、生活習慣に関する質問票を用いて、睡眠の質、抑うつや怒り、自尊心に対する自己認識を調べた。1 週間の睡眠日誌による評価、一晚の睡眠検査と 2 日間の心臓活動評価も行った。

テキスト/電話の平均利用回数は 1 日 35~40 回であったが、15 回以上利用する群の中には過度に利用する者もあり、1 日 200 回以上の利用もみられた。夜間に携帯電話を切ると報告したのは 1 人のみであった。利用の多い群は利用が少ない群に比べて、睡眠時間が不規則で、入眠および覚醒困難、さらにより多くの睡眠障害を経験していた。

また、興奮性飲料の摂取量も多く、そのためか落ち着きがなく、ストレスや疲労も感じやすかった。Bader 氏によれば「若者の間では携帯電話など新しい技術がすぐに広がり、24 時間連絡がとれなければならないというプレッシャーから中毒になり、深刻な健康問題が生じる」という。

米 E. P. Bradley ブラッドリー病院 (ロードアイランド州プロビデンス) の Mary Carskadon 博士は「人との接触は眠らないでいる最良の方法の 1 つ。脳が『眠りたい』ときにメッセージや電話を受ければ、睡眠障害に陥りやすい。親が注意を払うことが有用かもしれない」としている。

資料: Yahoo!ヘルスケア

II オンラインのプライバシー管理が甘い若者たち——英調査

大半の若者たちは、個人情報に誰にでも入手されてしまう危険性を深く考えずに、SNS などで氏名や住所などを公開しているようだ。

英国の若者 450 万人は、大学や将来の就職先にソーシャルネットワークサービス (SNS) に載せたコンテンツを見られたくないと考えている ——。英情報監督庁 (ICO) が 11 月 23 日、調査結果を報告した。10 人中約 6 人は、オンラインのコンテンツが半永久的に保存され、今後ずっとアクセス可能だということを想像もしていなかったという。

英国在住の 14~21 歳を対象に行われたこの調査から、彼らのオンラインでの行動が、詐欺の格好の標的となり得ることも明らかになった。16~17 歳の少女の 10 人に 8 人は、SNS 上で見知らぬ他人を「友だち」として登録し、半数以上は新しい友だちを得るために自分のプロフィールの一部を公開している。10 人中 7 人以上は、自分のプロフィールが他人に見られることを考えておらず、7%はプライバシー設定を重視せず、誰にでも自分のプロフィールのすべてを公開したいと考えている。

また 60%は誕生日、25%は仕事の肩書き、約 10%は住所を公開している。さらに 23%は兄弟姉妹の名前、少女の 25%はペットの名前、2%は母親の旧姓を公開しており、こうした情報を組み合わせると、銀行口座などの暗証番号が解読されてしまう可能性がある、と ICO は指摘している。

若者たちの 3 分の 1 は SNS のプライバシーポリシーを読んでおらず、個人情報管理の方法について理解していないことが明らかになった。一方、Web サイトが広告宣伝のために個人情報を使用したり、ほかの Web サイトや企業に情報を提供する可能性があることについてどう思うかと尋ねると、95%が「心配」と答え、うち 54%は「非常に心配」と回答している。

ICO は若者の個人情報管理についての理解を深めるためのサイトを新設。ブログの書き込みはほぼ永久に残ってしまうこと、プライバシーがいかに重要かということなどを説明し、インターネットを利用する際の注意を促している。

資料：ITmedia News

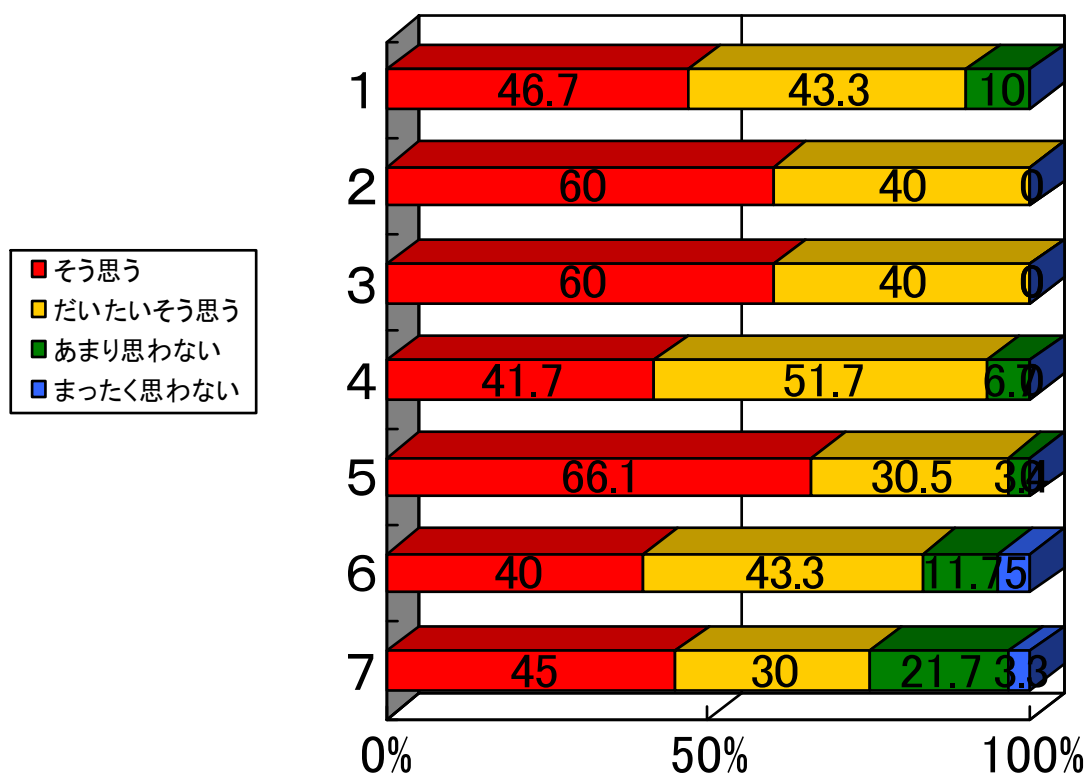
さて、以上のことを基本的な知識として学習した上で、各自で関心のあることについて調査してもらうことになります。

今回のテーマの中であなたの関心があるものは何ですか。できるだけ具体的に書いてください。

3 年 組 番 名前

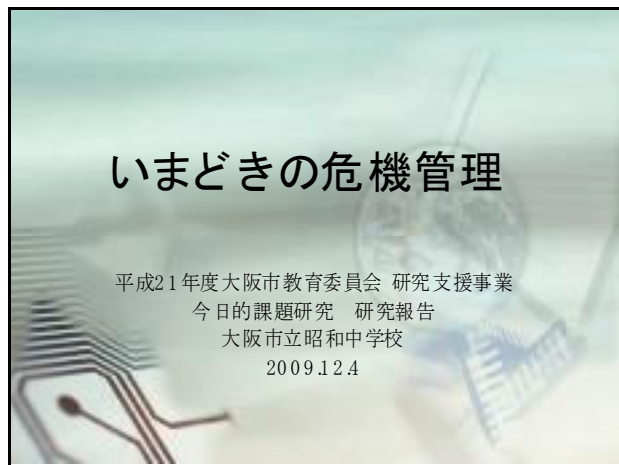
③ 生徒アンケート結果

- 1 これからの社会は、パソコンを使えなければならないと思った。
- 2 チャットソフトの使い方がわかった。
- 3 匿名性のある場合に比べて、ない場合はみんなの発言が、不適切になる場合が多くなると思った。
- 4 匿名性のある場合に比べて、ない場合は自分の発言が、不適切になる場合が多くなると思った。
- 5 チャットや掲示板、ブログに関する危険性を知ることができた。
- 6 今日の授業は、今後役に立つと思う。
- 7 これからも、ネット社会に潜む危機についての授業を受けたい。

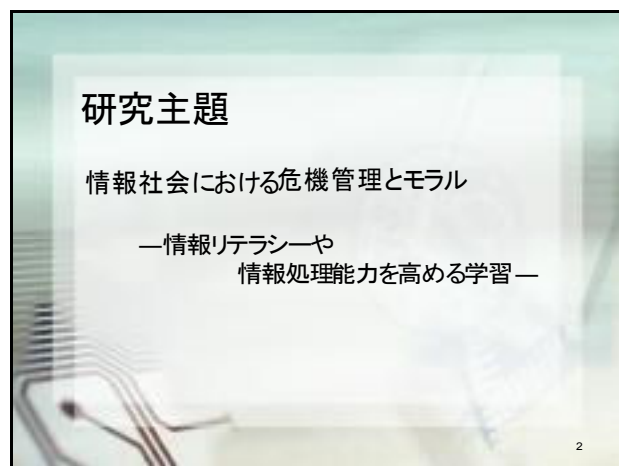


5 研究協議資料

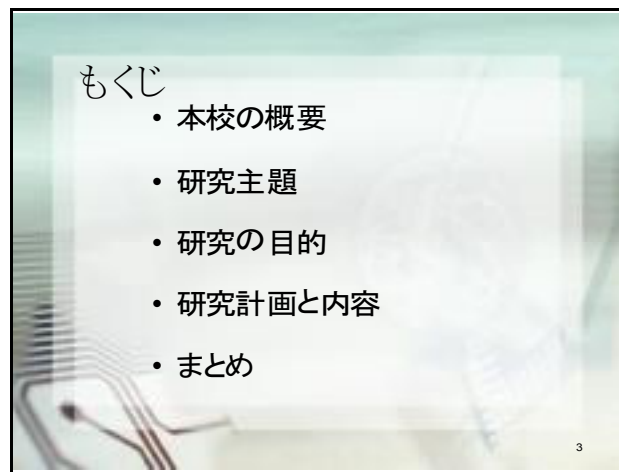
スライド 1



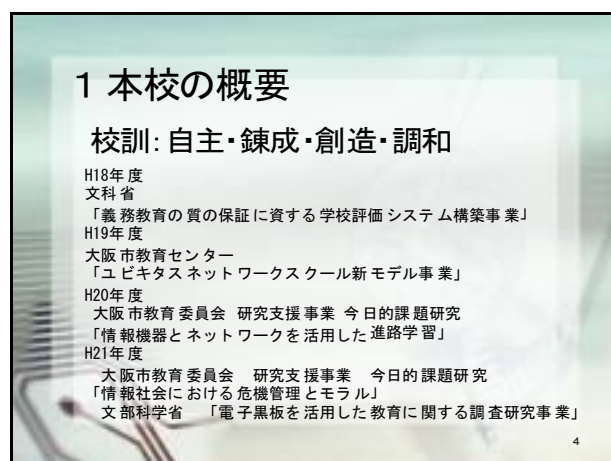
スライド 2



スライド 3



スライド 4



1 本校の概要

校訓: 自主・錬成・創造・調和

H18年度
文科省
「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」

H19年度
大阪市教育局
「ユビキタスネットワークスクール新モデル事業」

H20年度
大阪市教育局 研究支援事業 今日的課題研究
「情報機器とネットワークを活用した進路学習」

H21年度
大阪市教育局 研究支援事業 今日的課題研究
「情報社会における危機管理とモラル」
文部科学省 「電子黒板を活用した教育に関する調査研究事業」

4

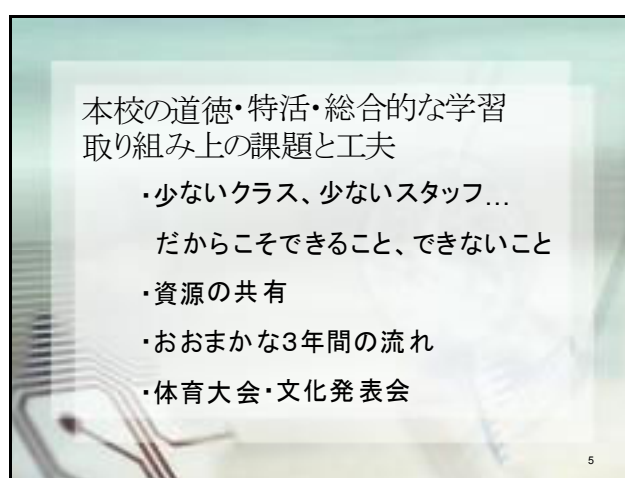
本校では、平成18年度に文部科学省の「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」、平成19年度は、前年度に取り組んだ学校評価における自校の次年度の課題に基づき、「ユビキタスネットワークスクール新モデル事業」に応募し、校内無線LANを活用した授業について研究を進め、12月に理科と技術科において公開授業も実施した。

平成20年度は、19年度の学校評価における自校の課題に基づき、キャリア教育を研究するための一つの方策として、また昨年度の研究の更なる発展を目指して、「研究支援事業」に応募し、「進路学習」の取り組みを進めている。

今年度は新教育課程への移行期間に入ったこともあり、「生きる力」の一つの柱として「情報社会における危機管理とモラル」をテーマとした学校全体のムーブメントを意識したグランドデザインとしての「いまどきの危機管理」プロジェクトを立ち上げ、研究を進めることにした。

後期に入り、文部科学省の「電子黒板を活用した教育に関する調査研究事業」の調査研究校となり、併せて研究活動を進めている。

スライド 5



本校の道徳・特活・総合的な学習 取り組み上の課題と工夫

- ・少ないクラス、少ないスタッフ...
だからこそできること、できないこと
- ・資源の共有
- ・おおまかな3年間の流れ
- ・体育大会・文化発表会

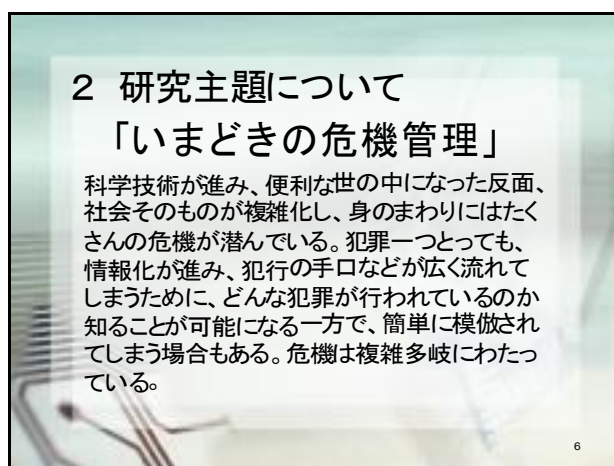
5

本校は各学年2学級、特別支援学級2学級の合計8学級の小規模である。その分、職員数も少ない。それだけに道徳や特活、総合的な学習で持ち寄れる経験の数は多くない。しかし、経験豊富な職員が多いので、これまで取り組んできた実績がそれをある程度埋めることができるが、学年を細かく分けていろいろと取り組ませるという方法はとりにくい。せっかくの豊かな経験から得られるものをみんなで共有することが本校では必要である。

また、年度初めに出して確認する年間指導計画では「基本方針」と「おおまかな3年間の流れ」にとどめ、縛りをきつくしすぎず、子どもたちの状況を見て、進めていくことでうまく進められてきたように思う。

昭和中学校における行事の中では体育大会・文化発表会の取り組みは地域、保護者にとっても期待が大きく、これらを維持発展させていくのがこれまでの流れであったが、新学習指導要領を踏まえて道徳・特活・総合的な学習のそれぞれのあり方や具体の実施計画を再構築しなければならない状況である。ただ、これらの大きな行事が生徒たちの創意工夫、自主的活動の大きな原動力であるのも事実である。

スライド 6



これは平成18年度に取り組んだ「いまどきの危機管理」の指導計画案の冒頭に書いたものです。

時は移り変わったが、身のまわりの危機は増えている一方ではありませんか。

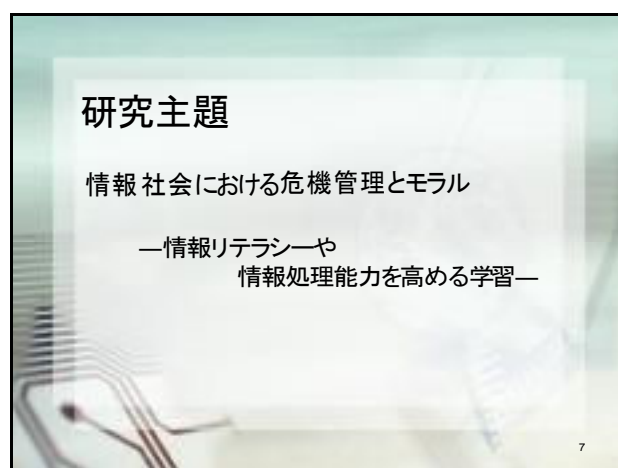
本校は、最近の少子化傾向もあり、また、比較的三世帯同居或いは祖父母が近くに住んでいることが多い状況の中で大切に育てられている子どもたちが多い。加えて、2つの小学校から入学してきているとはいえ、長池小学校から約50名、苗代小学校から約十数名というアンバランスの中で、保育園、幼稚園以来お互い良く知った仲で入学してくる。結果として非常にのんびりとした人間関係で育まれてきていると言って良いでしょう。それだけに、危機意識の低さや甘えなどが見られ、高校進学時に「昭和中の時の方が良かった」といって愚痴をこぼしに来ることも多々あります。

こういう状況だからこそ、昭和中の子どもたちに対して、危機管理意識の醸成が必要であると実感したわけです。

同様のことは教職員についても散見された。今問題になっている個人情報の管理について、子どもたちが落ち着いているだけに、過去には職員室内で時に個人情報むき出しになっている場合もあった。さらに、本校の構造上の問題で、校舎、体育館、グラウンドが道路で分断されている。そのため、校舎の出入り口は基本的につねにOPENである。常に高いレベルの危機管理意識が求められるが、その維持はなかなか難しい。

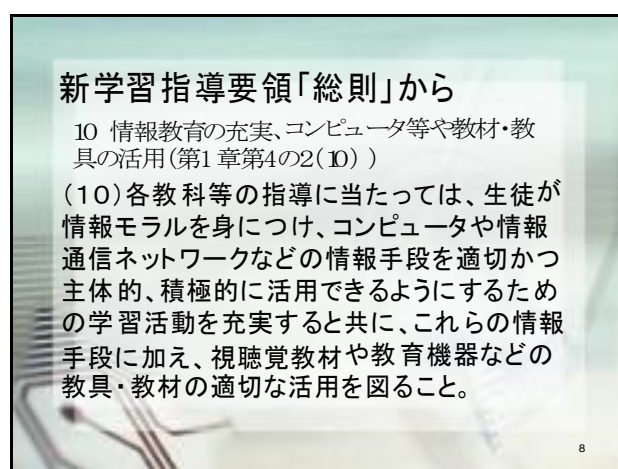
そういうことが徐々に見えてきた中で、「いまどきの危機管理」のイメージが芽生えてきた。

スライド 7



そういった状況の中で職員や子どもたちの危機管理意識を高めるために、総合的な学習の中で各教科の学習や「情報教育」とともに進める方法として、また、情報社会における子どもたちの環境における危機的な問題点が多くみられるので、これを主題に決めた。

スライド 8



新学習指導要領にはこのような項目がある。

今回の取り組みは、今後の総合的な学習のあり方の一つとしても、齟齬のな

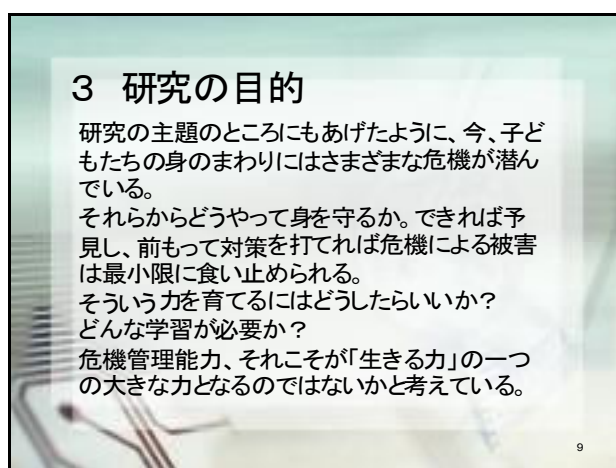
いものと考えられる。

また、この項目の解説には、

「社会の情報化が進展していく中で、生徒が情報を主体的に活用できるようにするとともに、情報手段の特性などを科学的に理解することや情報モラルを身につけることが一層重要となっている。」とされていることと考え合わせても、適切なテーマであると考えられる。

加えて、各教科を巻き込んだ形はむしろ、この総則でも想定している進め方であり、新学習指導要領を先取りした形で取り組んでいると考えている。

スライド 9



大きく分けて、子どもたちへの危機管理意識の醸成と教職員への啓発がこのプロジェクトの二本柱であると考えている。

本校の取り組みの一つの大きな柱となるべきプロジェクトとして考えている。

教職員への啓発は、昨年度本校のプライバシーポリシーを策定するなどの取り組みや、各種校内研修等で、徐々に進めている。

子どもたちへの取り組みについては、いざ考えてみると、この学習はどの範疇に入るのか悩んでしまった。

総合的な学習か特活か道徳か。

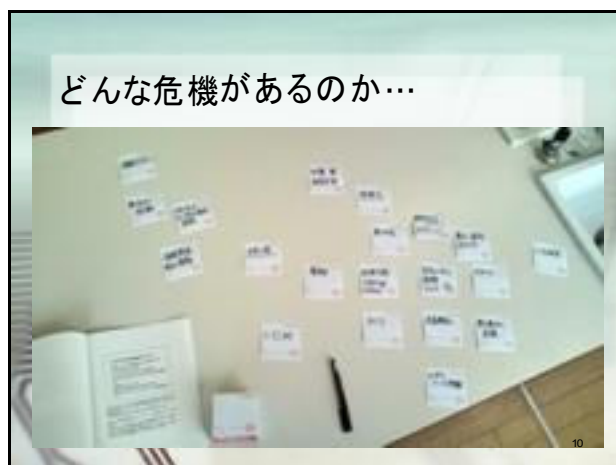
対象とする範囲を広げれば、学校でのすべての活動に関係してくる。それだけに、このプロジェクトについてより具体的に鮮明に指導計画を打ち出さないと、教職員が一致して取り組むのが難しい。

しかしながら、「危機管理」は学校教育現場では最優先事項である。それは教職員だけの問題ではなく、子どもたちが安全に生活し、生き残っていく上で身につけておかなければならない基本的な知識・技能ともいえるからではないだろうか。

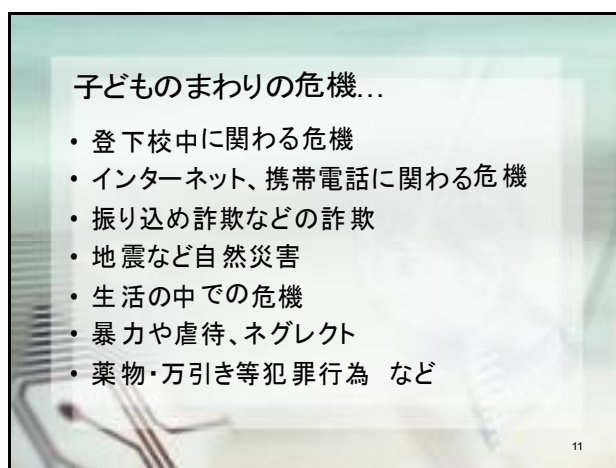
しかし、これを単に総合的な学習だ、特活だ、道徳だと割り切れるものではないが、それぞれの時間で何をどこまでやるのかを振り分け、さまざまな学習の中で積み上げていくことが必要である。

また教職員も研修を積まなければならない現実が見えてきて、この両輪を学校のグランドデザインとして進めていくのが大切だと考えた。

スライド 10



スライド 11



1 登下校中に関わる危機は子どもたちにとって最も身近に存在する危機であろう。現に本校でも過去に登校中に車に連れ込まれそうになったというトラブルもあった。

2 インターネット、携帯電話に関わる危機は、最もホットな話題の一つである。教育委員会からの通知にも度々出てきていることから、その危険性は大きい。インターネット、コンピュータというだけで敬遠される先生方もおられる。おとなより子どもの方がこの方面には強い。それだけに難しい。また、見えにくい。

3 振り込め詐欺そのものはお年寄りに向けられたものが多いが、ワンクリック詐欺（最近ではツークリック詐欺もある）なども含めて、言葉巧みに迫ってくる詐欺は人生経験の少ない子どもたちは恰好の獲物にされかねない。

4 地震などの自然災害、中でも地震は近い将来、必ず来ると言われている。それだけに、準備や心構えができていいのかというと…疑問な部分もある。考えさせ、家族で話し合ったり、持ち出し袋の用意を促すなど進めたい項目の一つだ。

6 暴力や虐待 今年度に入ってからでも子どもたちに関わって何件かの事件があった。虐待やネグレクトなどについてはそれをする大人の側の問題だけど、身を守る術やどこに言っていけばよいのかなどについて知らせておきたい。また、教師はそれをどう見つけ、見つけたらどう動くかの研修が必要である。

7 薬物・万引き等犯罪行為 近年大学生・主婦にまで広がっていると言われている麻薬・覚醒剤は非常に大きな問題である。未然防止が一番である。また、万引き、自転車窃盗など「つい出来心」でやってしまう犯罪行為だが、万引きについては単にスリルのためであるという報告もある。スタンスを変えて取り組まないと、防げない。社会で生きていく上で、社会のルールを守って生きていくことの大切さを理解させることはとても大切。また、薬物だけでなく喫煙については心身を壊してしまうことにつながる。これは是非とも防ぎたいものだ。…など。

他にもあまり罪がないように見えるニセ科学の問題、温暖化の影響で夏にふつうに生活していても命に関わりかねない熱中症など枚挙にいとまがない。以上のように色々あるけれど、ここにあげただけでも、一つ一つについて指導していたら、きりが無い。

なのに、それらすべてを網羅する取り組みが果たしてできるのだろうか。

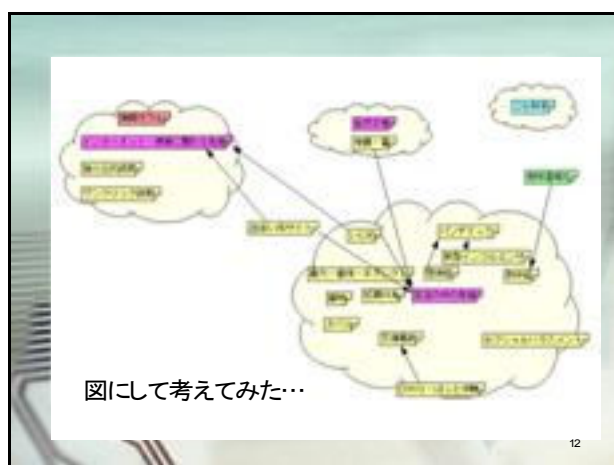
個別で考えていたらできないだろう。

だから…それぞれの危機について正しい知識を持つこと。また、そのための手段を身につけること。

そして、冷静に正しい判断ができる力を持つこと。これらが合わされば、現代社会を生き抜くことができるのではないかな。

危機を回避し、安全に生活できるのではないかと考える。

スライド 12



リストアップだけでは全体像が見えてこないなので、図にして考えてみました。

こうして切り分けてみると、大きく3つに分類できた。

一つは「一般的な生活の中の危機」、二つ目は「自然災害」

三つ目は「インターネット・携帯等情報社会に関わる危機」

これらの子どもたちのまわりの危機を考えたとき、

学校での取り組みとしては、一つ目の一般的な生活の中の危機は特活や避難訓練、防災訓練、保健行事など安全教育として取り組む内容である。

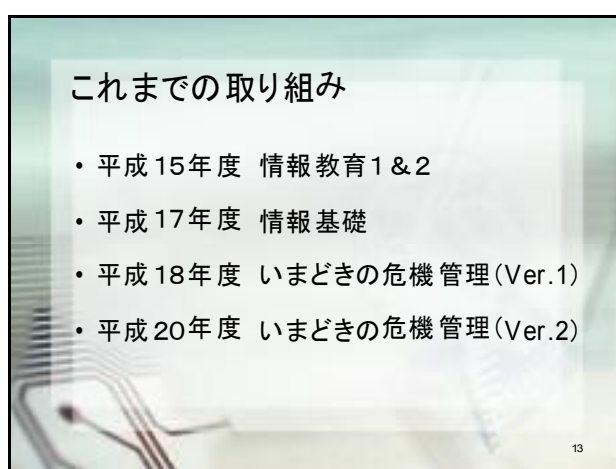
二つ目の自然災害は理科や社会での学習も含め教科と特活で取り組むのが適切であるかなと。

三つ目のインターネット・携帯等情報社会に関わる危機において、情報教育との関連で国語科や技術科とタイアップしながら進めていく必要があることが見えた。情報モラルについては道德の範疇でもとらえられる。

個人情報の保護やネットでのいじめ、出会い系、ワンクリック詐欺など幅広い危機があるだけに、情報をしっかり扱える力が求められる。

子どもたちに対しては、この力こそしっかりつけさせたいと考えた。

スライド 13



平成15年度：2学年、前任校の時から総合的な学習の取り組みについていろいろと研究してきた。中でも情報教育、メディアリテラシーについては興味があったので、研究し、指導計画案を考えていたので、本校に移ったのを機会に取り組める機会をうかがっていたところ当時の学年主任からやってみようと言われて、取り組むことにした。

情報教育1では情報基礎、調べるための基礎知識として図書館の使い方、ネットでの検索の仕方、パワーポイントの使い方を学習した。

情報教育2では「メディアの罠を見破れ」ということで、テキストを使って学習した後、持ち寄った広告ビラを分析し、そのテクニックを使って広告を作成し、その広告のプレゼンテーションを行った。

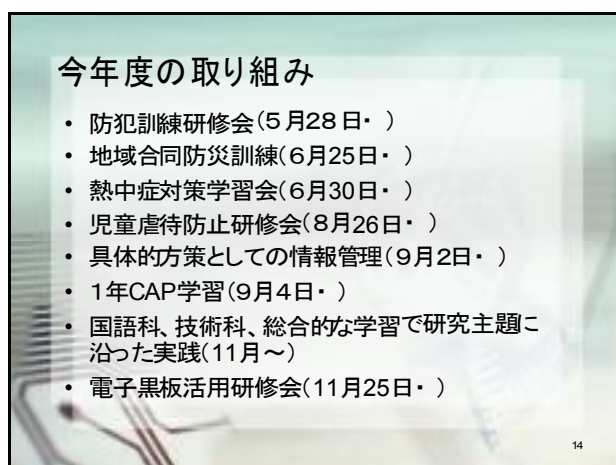
平成17年度は1学年で情報基礎：調べるための基礎知識（図書館の使い方、パワーポイントの使い方）を実施。これだけでは足りないと思っていたが、他の取り組みも含めて、時間の確保ができなかった。

平成18年度 2学年 前から考えていた「いまどきの危機管理」(Ver.1)を実施。テキストでの学習とインターネットについての本校教諭による講演、阿倍野警察からの防犯講演の構成で実施。

平成20年度 2学年で 前回の子どもたちの反応から再調整した「いまどきの危機管理」(Ver.2)を実施。テキストでの学習（学年全体でパワーポイント

を使って堀端が講義) 時間の都合でこの取り組みのみ。
できれば、さらに続きをやりたいと考えていたので、今年度最新版で包括的な
「いまどきの危機管理」プロジェクトを立ち上げた。
プロジェクトのメンバーはもちろん教職員全員であるが、推進役は教務部がに
なっている。

スライド 14



危機管理をテーマとした今年度はそれに関係する研修会を比較的多く持つことができている。

これらにより、教職員の間にも危機管理について意識を持ってもらえるようになった。

また、身のまわりに非常に多くの、さまざまな危機が潜んでいることを理解してもらえた。

子どもたちも例年になく様々な危機管理の取り組みを通して、自分を守る方法を身につけてきている。

スライド 15



スライド 16



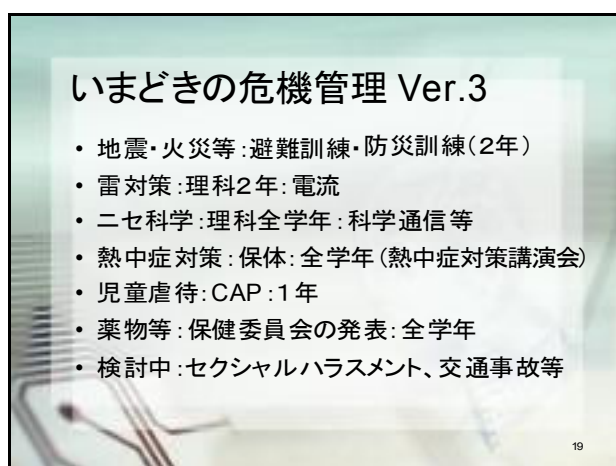
スライド 17



スライド 18

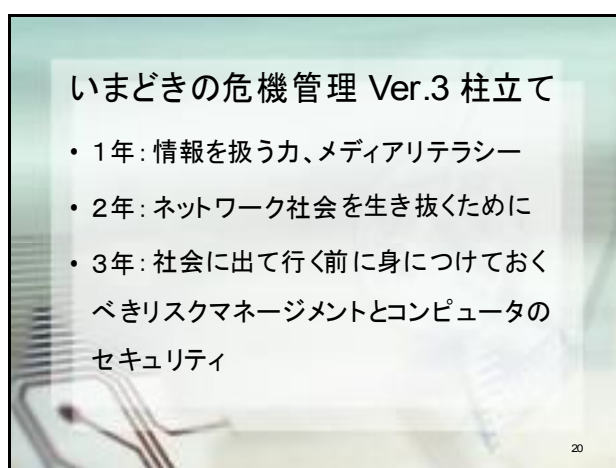


スライド 19



今回の子ども向け「いまどきの危機管理」は単学年の取り組みではなく、学校全体として1年から3年までの特活・道徳・総合的な学習のすべてにつながるグランドデザインとして組み立ててみた。結果的にはいくつかの教科も巻き込むことになった。

スライド 20



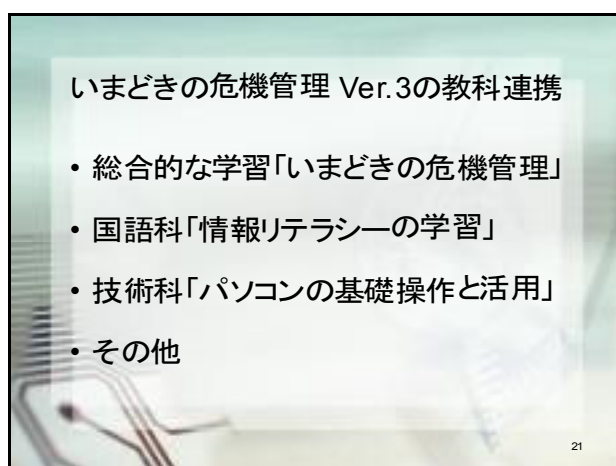
1年生では情報を扱う力…メディアリテラシーを育てる。

正しい知識を持つことの大切さと情報を篩にかけ、信頼性の高い情報の集め方と分析の仕方を身につける。

2年生では、特に最近問題になっているネットや携帯に関わるトラブルを中心とした「ネットワーク社会を生き抜くために」と身のまわりの様々な危機について考えさせる学習を行う。

3年生では、社会に出て行く前に身につけておくべきリスクマネジメントとコンピュータにおける積極的なセキュリティーについて学ばせる。
…以上のような基本的な考え方のもとに、今年度の危機管理学習「いまどきの危機管理」を計画した。

スライド 21



この取り組みにおいては、新学習指導要領で求められている様々な教科での情報技術の活用に関わる能力・態度を身につけさせるという要求も満たすことができる。

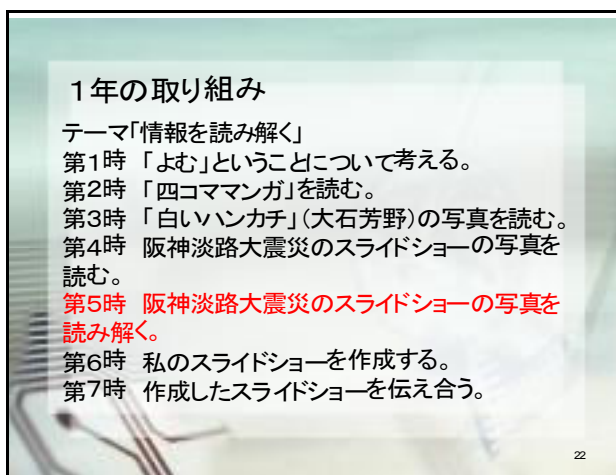
現に今回の学習を進めるにはさまざまな教科の支援を得なければならないものである。

たとえば、国語科の情報の扱い方。今回はとくに1年生で関わってもらっている。

技術科もコンピュータの使い方のみならず、もっと進んだ活用の仕方まで学習している。

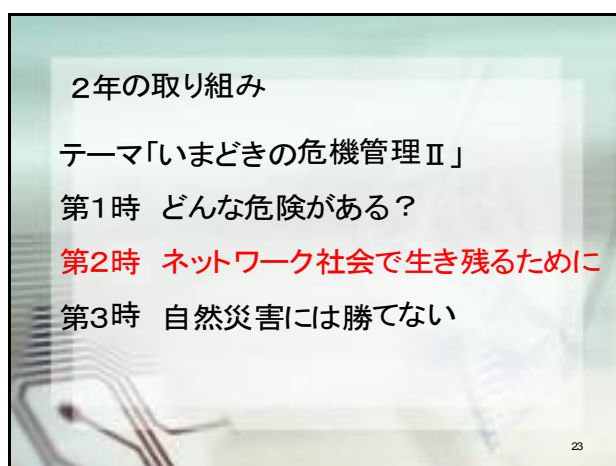
その他にも熱中症対策関係では保健体育科、自然災害などにかかわるところでは理科や社会なども危機管理を意識して、進めている。

スライド 22



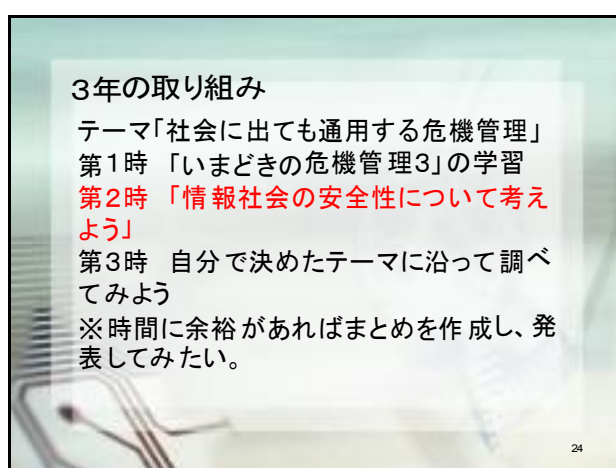
情報教育基礎、メディアリテラシー、情報モラルについて、情報を扱う上での基本的な事項を学習することを目指す。

スライド 23

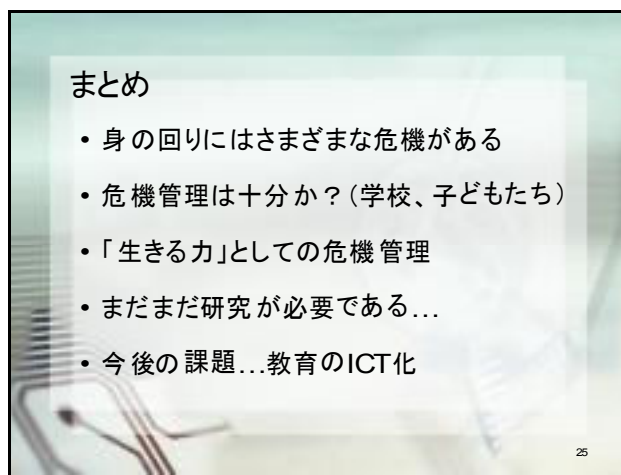


テキスト「いまどきの危機管理」を改訂しながら身の回りのさまざまな危機について知り、特に身近な「ネット社会に潜む危機とその対処法」について学ばせる。

スライド 24



卒業して社会に出ても危機に対応できる力の育成を目指して、「いまどきの危機管理」をもう一歩進める。また、直接世界にむき出しになるネット社会でのさまざまな問題点についても学習する。



今回、研究を行ってきて、学校内外のさまざまな危機には本当にたくさんの種類があり、そのための対策はかなり不十分なものであることがわかった。

子どもたちが身につけなければならないこともさることながら、それらについて、教師は十分にわかっているわけではない。とくにネット社会については子どもたちより知らないことが多かったりする。

また、子どもたちを守るという点においての危機管理も十分な対策がされているとはいえない部分も見えてきた。

特に生徒は毎年入れ替わっていくので、同じ学習の繰り返しでもある必要である。

さらに研究を進め、安全な学校づくり、そして、真の意味での「生きる力」を発揮できる子どもたちの育成に努めたい。

今後の課題としては、新しい学習指導要領にもとづいた総合的な学習や特活、道徳を見据えながら情報教育、安全教育、モラルなど「危機管理」を軸とした包括的な取り組みをより凝縮したものにして組み立てていきたい。

また、これまでの研究で得た、ユビキタス環境、電子黒板なども活用した教育のICT化についても併せて進めていきたいと考えている。

流行語にもなった「事業仕分け」であちこちの予算が削減される中、幸いにして、電子黒板を使った授業の調査研究校として指定されたので、3学期以降電子黒板を活用した授業についても研修、研究していく予定である。これも単に教科だけではなく、今回の危機管理や道徳などでも活用も考えている。

教育のICT化については最初の一步を踏み出そうとしているところである。

6 成果と課題

- 生徒が情報社会の恩恵を受けつつ、その危険性について知ることにより、情報社会を意識した学習活動を進めることができた。
- 生徒が情報機器の活用方法を知り、情報の処理能力を高め、自らの手で自らを守る危機管理の能力を伸ばすことができた。また、学習をプロジェクトとして取り組むことにより、各学年を系統化して、学校全体で推進することができた。
- 校内は落ち着いた状況で、主体的に学習する生徒も多く見られる。小規模校ながら、種々の研究活動を進める教員の積極的な教育活動への取り組みにより、校内の教育活動がより活性化している。
- 学校評価（自己評価・学校関係者評価）を継続的に実施することにより、教育活動のPDCAサイクルができ、学校の課題への共通理解が進んできた。
- 校内LANの整備により、情報機器の活用が進みつつある。今後は、文部科学省の研究事業「電子黒板の教育利用に関する研究」に重点を置き、さらなる情報機器活用を推進する必要がある。
- 本校では、少人数指導等に早くから取り組んできており、情報を読み解く能力の開発に、きめ細かく携わってきた。
- 情報機器の整備には予算が必要であり、教育のICT化に向けて、まだまだ十分なものになっていない。また、教員の機器活用のスキル向上を図るため、研修が必要である。

7 今後の目標

（１）教育ICT化の推進

- ①電子黒板導入による情報教育の拡大とノウハウの蓄積
- ②新学習指導要領における情報教育の在り方の研究

（２）危機管理の充実

- ①総合学習での取り組み
- ②小中・中高連携の拡大
- ③保護者・地域連携